

中央・小川デザインプロジェクト  
～次の世代の施設を考えよう～

〈中央・小川デザインカフェ報告書〉



小平市  
令和元年6月

## 目次

1	中央・小川デザインカフェの目的と概要	1
	(1) 中央・小川デザインカフェの目的	1
	(2) 中央・小川デザインカフェの概要	2
	① 中央・小川デザインカフェ日程等	2
	② 募集方法	3
	③ 準備会実施概要	4
2	第1部中央・小川デザインカフェ	5
	(1) 第1部第1回中央・小川デザインカフェ（11月10日）	5
	① 第1部第1回中央デザインカフェ	5
	② 第1部第1回小川デザインカフェ	8
	(2) 第1部第2回中央・小川デザインカフェ（12月2日）	10
	① 第1部第2回中央デザインカフェ	11
	② 第1部第2回小川デザインカフェ	13
	(3) 第1部第3回中央・小川デザインカフェ（12月22日）	15
	① 第1部第3回中央デザインカフェ	15
	② 第1部第3回小川デザインカフェ	19
3	第2部中央・小川デザインカフェ	26
	(1) 第2部第1回中央・小川デザインカフェ（1月19日）	26
	① 第2部第1回中央デザインカフェ	26
	② 第2部第1回小川デザインカフェ	29
	(2) 第2部第2回中央・小川デザインカフェ（2月17日）	32
	① 第2部第2回中央デザインカフェ	33
	② 第2部第2回小川デザインカフェ	35
	(3) 第2部第3回中央・小川デザインカフェ（3月17日）最終回	38
	① 第2部第3回中央デザインカフェ	38
	② 第2部第3回小川デザインカフェ	40
4	中央・小川デザインカフェを終えて	45
	(1) 中央・小川デザインカフェを終えて	45
	(2) 今後の「中央・小川デザインプロジェクト」の展望	46

# 1 中央・小川デザインカフェの目的と概要

## (1) 中央・小川デザインカフェの目的

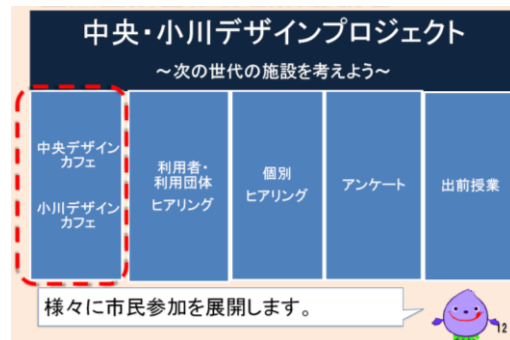
小平市では、将来の人口減少、少子高齢化や施設の老朽化など、公共施設を取り巻く環境の変化を見据え、公共施設の延べ床面積の適正化や魅力あるサービスの実現等に向けて取り組む公共施設マネジメントを「小平市公共施設マネジメント基本方針」及び「小平市公共施設マネジメント推進計画」に基づき進めています。

これらの方針及び計画を踏まえ、「(仮称)中央公民館及び健康福祉事務センターの更新等に関する基本計画」及び「(仮称)小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画」(以下、「基本計画」という。)を策定するための検討を進めています。

小川駅西口地区市街地再開発事業にて取得する公共床及び市民広場用地では、駅隣接の利便性やさらなる駅前のにぎわいを創出することを目的とした検討を行い、また、老朽化が進む中央公民館周辺エリアの機能再配置等も含め、一体的に検討を進めています。

これらの諸施設の整備に当たり、行政機能の向上を図るとともに、将来的なニーズを意識しながら、量の豊かさから質の豊かさへの転換に向けた次の世代の公共施設づくりを目指します。

基本計画の策定に当たり、「中央・小川デザインプロジェクト～次の世代の施設を考えよう～」と題し、ワークショップ、アンケート、利用者及び利用団体ヒアリング、小・中学生を対象とした出前授業の実施などによって、長期的な視点で検討し、「次の世代の公共施設づくり」を見据え、市民参加で検討を進めました。



「中央・小川デザインカフェ」は、このプロジェクトにおけるワークショップの取組として開催しました。「カフェ」としたのは、堅苦しいワークショップではなく、コーヒーやお茶を飲みながら、カフェに来たような気持ちでたくさん語り合って、皆さんの日頃感じていることや意見を出し合って欲しいという思いから、名付けたものです。市は、この「中央・小川デザインカフェ」の成果を踏まえて、基本計画の策定やその後の設計等の取組を進めていきます。

本報告書は、平成30年9月から平成31年3月まで行った「中央・小川デザインカフェ」の概要と成果をまとめたものです。

(2) 中央・小川デザインカフェの概要

① 中央・小川デザインカフェ日程等

(ア) 登録者数

55名

(イ) 延べ参加者数

198名（中央デザインカフェ 112名、小川デザインカフェ 86名）

(ウ) 日程等

日程		場所	テーマ	参加人数		
第1部	第1回 平成30年 11月10日 (土)	中央 小川	10:00 ~12:00 14:00 ~16:00	中央公民館講座室 2 小川西町中宿地域 センター集会室	中央公民館周辺の未来 を想像しよう！ 小川駅周辺を見つめよ う！	19名 16名
	第2回 平成30年 12月2日 (日)	中央 小川	14:00 ~16:00 10:00 ~12:00	中央公民館学習室 4 小川西町公民館ホ ール	誰もが使いやすい公共 空間を考えよう！ 公共スペースのあり方 を考えよう！①	17名 15名
	第3回 平成30年 12月22日 (土)	中央 小川	9:30 ~12:00 14:00 ~16:30	福祉会館小ホール 小平第六小学校多 目的室	公共空間の価値創造提 案を考えよう！ 公共スペースのあり方 を考えよう！②	20名 15名
	第1回 平成31年 1月19日 (土)	中央 小川	14:00 ~16:00 10:00 ~12:00	中央公民館学習室 4 小川西町公民館ホ ール	新建物に期待する機能 を整理しよう！ 市民広場の活用方法を 考えよう！	19名 12名
	第2回 平成31年 2月17日 (日)	中央 小川	10:00 ~12:00 14:00 ~16:00	福祉会館小ホール 小川西町公民館ホ ール	新建物の運営方法など を考えよう！ 誰もが楽しめるにぎわ いの場を考えよう！	18名 13名
	第3回 平成31年 3月17日 (日)	中央 小川	9:30 ~12:00 14:00 ~16:30	福祉会館小ホール 小川西町公民館ホ ール	地域に愛される新建物 を目指そう！ 小川駅前の未来予想図 を描こう！	19名 15名

## ② 募集方法

「中央・小川デザインカフェ」の募集は、市報、市ホームページ、チラシ、説明会として「次の世代の公共施設づくり準備会」（以下、「準備会」という。）の開催などにより行いました。

### 【中央・小川デザインカフェ 募集チラシ】



また、参加要件としては、次のとおりで案内しました。

### ■ 参加要件 ■

- ① 小平市と関係のある方（在住、在勤、在学、市内で活動する方）が対象です。
- ② 日程は、中央公民館周辺エリアと小川駅周辺エリアの2つのエリアにて、第1部と第2部の組合せで構成しています。
  - ・中央公民館周辺エリアの第1部か第2部または両方の、原則 全日程に参加できる方
  - ・小川駅周辺エリアの第1部か第2部または両方の、原則 全日程に参加できる方
  - ・両方のエリアの第1部か第2部または両方の、原則 全日程に参加できる方「ほとんど出られるけどここだけどうしても出られない・・・」と悩んでいる方も、その旨を伝えていただければご応募いただけます。「やっぱり参加したい！」と思った方など、日程の途中からでも参加できます。なお、事情により日程やテーマの変更の可能性があります。日程等はあらかじめ市報や市ホームページなどでお知らせする予定です。
- ③ 「次の世代の新しい公共施設づくりについての私の考え」をご記載いただいたうえで、市にご提出をお願いします。様式は任意です。  
住所、氏名、年齢、電話番号、市との関わり（在住、在勤、在学、市内で活動する方）、電子メールアドレス、参加希望のエリア・日程（第1部・第2部・両方）をご記載のうえ、問合せ先へ（ファクシミリ・電子メール・郵送・持参のいずれか）
- ④ 募集は10月9日（火）から開始
- ⑤ 各回の定員は30名です。定員を超えた場合は参加できない場合がございます。  
※申込書の参考様式は市ホームページに掲載していますのでご利用ください。

### ③ 準備会実施概要

準備会については、6月から8月にかけて開催した「複合化等の方向性」の市民意見交換会の結果を踏まえ、次の世代の公共施設づくりを進める準備として、今後の市民参加の全体像となる「中央・小川デザインプロジェクト～次の世代の施設を考えよう～」や、「中央・小川デザインカフェ」の進め方などについて説明を行いました。また、準備会では、他自治体の取組の事例紹介や参加者同士での意見交換なども行いました。

会の進行として、前半に、これまでの公共施設マネジメントの取組や市民意見交換会の結果報告、そして、今後の市民参加の進め方を説明し、後半には、他自治体の事例紹介を踏まえながら、「中央・小川デザインカフェ」のオリエンテーション的な位置付けとして、参加者同士で公共施設に関することについての意見交換を行いました。

実施日時と参加人数等については、次のとおりです。

日程			場所	参加人数
9/30 (日)	中央	10:00 ～12:00	福祉会館第一集会室	16名
10/8 (月・祝)	小川	10:00 ～12:00	小川西町公民館ホール	30名

また、準備会で市民の皆さんから出た主なご意見は、次のとおりです。

- ① 小平市は自然環境が豊かなのが特徴である。小平市の特色（自然があることや大学が周辺にあることなど）を活かすことが必要である。
- ② 財政的なものを見据えて、現実を踏まえないといけない。
- ③ 関心のない方にどう働きかけるかについても考えなければいけない。
- ④ 近隣の住民とそうでない市民との意識は異なるため、エリアを区切って整理をすることも必要である。
- ⑤ 年齢層やライフスタイルが様々に異なる中で、市民が何を求めているかについて声をよく聞いてほしい。
- ⑥ 障がい者や高齢者などが使いやすいバリアフリーのことも考えてほしい。

## 2 第1部中央・小川デザインカフェ

### (1) 第1部第1回中央・小川デザインカフェ（11月10日）

1回目は、まず「中央・小川デザインカフェ」についての説明や市の取組経過等について説明しました。

その際、右図の資料を提示しながら、中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館に関する機能は（仮称）新建築物に、小平元気村おがわ東の一部及び西部市民センターに関する機能は、小川駅西口公共スペースにまとめていき、従来の利用環境に大きな影響がないようにしていくことを基本的な方向性とする説明しました。

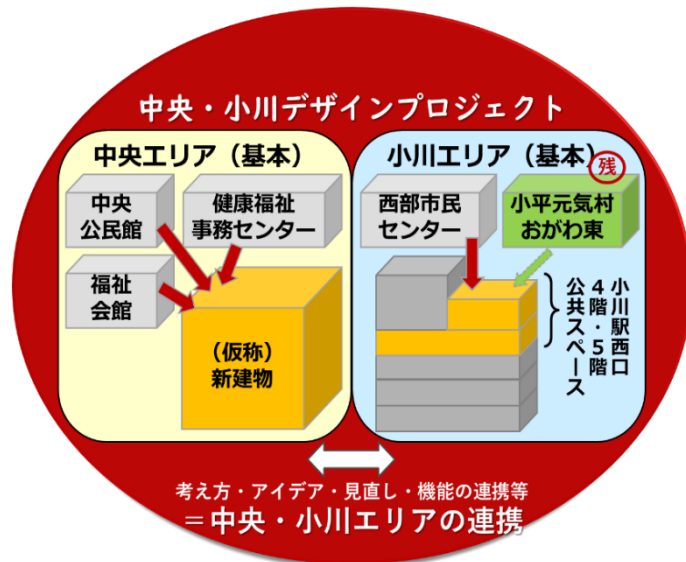
別々のエリアでありながらも、「中央・小川デザインプロジェクト」としたのは、各々のカフェで出る課題や意見、アイデアなどについては、相互に活かし合える内容もあるのではないかとこの視点によるものです。

進行に当たり、参加者同士で簡単な自己紹介タイムを設けて交流した後、中央・小川でのテーマの検討を次のように進めました。

#### ① 第1部第1回中央デザインカフェ

中央デザインカフェでは、「中央公民館周辺の未来を想像しよう！」というテーマのもと、ワーク1・2として、中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館のある市役所周辺の中央エリアについて、「良いところ・得意なところ」と「嫌いなところ・苦手なところ」について考えました。

次に、ワーク3として、未来のエリアがどうあるべきかを仮に20年後と設定して考えました。そして、そこで出た意見を基に、未来のエリアに欠かせないと思われる要素を3要素に絞りました。



#### ■ワーク1 中央エリアの良いところ・得意なところ

- 中央エリアは、小平市の真ん中に位置しているため、色々なところから人が集まれる。
- 中央公民館の駐車場が広く、駐車可能台数が多い。
- 自転車でも行きやすい。
- 見晴らしがよく、屋上から、富士山やスカイツリーが見える。
- 施設内の部屋数が多い。
- 駅からも近く、市内外からのアクセスが良い。
- 周辺に咲く桜がきれい。
- 静かで過ごしやすい。
- 公民館内に、文化系の発表の場など、ギャラリースペースが多い。
- 小学校などの学校機関が近くに多い。
- ドラッグストアが近い。
- 都営バスの運行が1時間に1本ある。
- 災害が少ない。
- 川に、メダカがいたり、木々が生い茂っていたり、自然に囲まれている。
- カフェ、ロビーなどのスペースが空いていて、利用しやすい。
- スペースを無料で活用できる。
- 公民館と福祉会館との距離が近く、公民館には食堂もある。
- 施設の利用者が多い。
- 公民館のスタッフが優しい。
- 機能が1つの区域にたくさん集まっているため利用しやすい。
- 中央公民館の広場は、祭りができるから良く、開催も多い。
- ホールは、講演会などに活用する人にとって使いやすい。
- 予約しやすい。

#### ■ワーク2 中央エリアの嫌いなところ・苦手なところ

- 道路や、踏切周辺に危ないと感じるところがある。
- 食堂やコンビニが少ない。
- コミュニティバスがなく、バスも少ないため、車でないと移動しにくい。
- 事業地辺りのエリアのトータルデザインができていない。
- 緑が少なく、庭がない。
- 災害の観点での整備がされていない。
- トイレが使いづらい（和式である）。
- 公民館に雑談するスペースがない。



- 青梅街道駅が遠い。
- 歩道が狭く、ベビーカーを活用する子育て世代や、車いすを使う障がい者、高齢者にとって不便である。
- 一方通行のところが多く、車の移動が不便な場所がある。
- 標識などの目印が少ない。
- 子どもの遊ぶ場所が少ない。
- 田舎のイメージが強い。
- 施設内に休む場所が少ない。
- 施設内に灰皿が置いてないため、喫煙者にとって不便（灰皿難民が生まれる）である。
- 宣伝が下手で利用者が少ない。
- ホールが狭い。
- Wi-Fi が使いにくい（すぐ切れる）。
- 壁が汚い。
- レストランが少ない。
- 道や施設内の段差が多い。
- 文化系の発表、特に大学生による文化系の発表が少ない。
- 施設利用者の横のつながりが少なく、施設同士の連携もあまりない。
- 施設を利用していない人から見ると、何をやっている施設なのか分からない。
- 福祉会館のエレベーターが、高齢者や障がい者にとって使いにくい。
- 天井が低く、大道芸による演出などが難しい。
- 壁に展示物を張りにくい。
- 暗い。
- 駐輪場が少ない。
- 近くにある踏切が混んでいて渡りにくい。

### ■ワーク3 20年後のエリアを考える・エリアの未来を3要素にまとめる

- 今後インフラ関係の整備、特に道路の拡大がなされるため、移動がスムーズになるのではないかな。
- 道路整備に伴い中心地の整備が想定されるため、緑が減らないように、緑を重視した環境整備が必要なのではないかな。
- 遊園地などの人が集まる何かを整備すると良いのではないかな。
- 鉄道がなくなることを想定したまちづくりが必要ではないかな。
- 市内には、工場や研究所があったが、撤退しているため、今後、研究所等がなくなることも考えてまちづくりを考えるべきではないかな。

- ・大学生が来てくれるまちづくりをして行くのが良いのではないか。
- ・福祉のまちとして、介護される人の充実はもちろんだが、介護する人を増やし、より福祉の充実のまちになったら良いのではないか。
- ・高齢者が会話できる場所を増やし、特に、大学生などの市に来てくれる若者と会話できるところを増やすのが良いのではないか。
- ・海外からの移住者を増やし、国際色を強くするのが良いのではないか。
- ・最近では、面白い遊具や子どもが自由に遊べる場所も少なく、孫と遊べる場所が少ないため、遊べるような場所を増やすまちづくりが良いのではないか。
- ・施設に、エレベーター、防災避難の工夫、障がい者のための電光掲示板、子どもが自由に書けるホワイトボードの用意、多目的教室を作るなどの取組が必要ではないか。
- ・市民が芸術について発信できる場、特に、若い人が発信できる場を作っていく文化の香りのするまちづくりが良いのではないか。
- ・高齢者の健康維持のため、筋トレ可能な空間や階段を設置し、運動の場を増やすのが良いのではないか。
- ・高齢者が多くなることを想定し、高齢者にとって快適・便利に過ごせるよう、エレベーターの混雑の緩和のための措置、エスカレーターの増加、電動車いすを設置するなどの取組も考慮したまちづくりをしていると良いのではないか。
- ・他のエリアの人が来やすいよう、交通面での配慮（路線への配慮）をするのが良いのではないか。
- ・子育てしやすいまちづくりを行うのが良いのではないか。
- ・屋上緑地、温暖化対策などを実施し、環境に配慮したまちづくりを進めるのが良いのではないか。

第1回中央デザインカフェでは、まずは制約などを考慮せずに、自由に中央エリアの良いところ、良くないところ、そして未来を考えて、意見を出し合いました。参加者からは、地域が今後どのように変わるのか気になる、あるいは、これからのことを共に創りたい、事業について話し合いたい、といった意見もありました。そのような意見を踏まえた取組とすることを心がけ、全6回ある中央デザインカフェでは、段階ごとに内容が深まっていくワークを進めました。

## ② 第1部第1回小川デザインカフェ

小川デザインカフェでは、「小川駅周辺を見つめよう！」というテーマのもと、小川駅西口にできる公共スペースの計画の現状を共有したうえで、再開発施設建築物の4・5階に再配置される予定機能として、図書館機能・公民館機能・広めの多目的室機能の3つに

ついて、求める要素を出し合いました。そして、その機能と共存させる行政機能（出張所機能）のあり方についても、意見やアイデアを出し合いました。

■ワークで出た意見まとめ（第1部第1回小川デザインカフェ）

機能	意見（求める要素）
図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館は、どんな人にも開けた教育の場にする。</li> <li>・新しい図書館には、レファレンス機能のみ設け、本は中枢の図書館にまとめる。</li> <li>・本を自由に読めるスペースが欲しいため、南池袋公園のように広場で本を読めるようにする。</li> <li>・幼児のために、絵本を読むスペースを設ける。</li> <li>・図書、特に、専門書を寄附できるようにする。</li> <li>・新しい機能（例えば、手話付きDVDがあるなど）がある図書館にする。</li> <li>・何かに特化した図書館である。</li> <li>・雑誌、新刊が置いてある。</li> </ul>
公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャラリーが必要である。</li> <li>・イベントや教室を実施しやすいようにする。</li> <li>・市民の力を発揮できる場にする。</li> </ul>
広めの多目的室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的に使える部屋が必要である。</li> <li>・多目的ホール（200～300人収容可能なサイズ）を整備する。ホール内は、階段式になっていると一番良い。</li> <li>・コンサートを実施出来るように、防音設備が必要である。</li> </ul>
施設全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい施設には、カフェ併設もしくはお酒（ワインなど）を飲めるスペースを設ける。</li> <li>・現状の公共スペースは似たような用途のスペースが多いため、重複しないようにする。</li> <li>・若い人や子どもを連れて気軽に来られるように、オープンスペースを用意する。</li> <li>・健康の維持向上につなげるため、スポーツジムを設ける。</li> <li>・仕事をする事が可能な場にするために、オフィススペースを設ける。その結果、民間事業者から借地・賃借料を得られるようにする。</li> <li>・高齢者や障がい者にとって分かりやすい標識を設ける。</li> <li>・コワーキングスペースを設け、同施設内に、託児所や保育園も設ける。</li> <li>・Wi-Fiが繋がる。</li> <li>・高級ソファが設置されている。</li> <li>・個人が居場所を感じるスペースを設置する。</li> </ul>

<b>施設全体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リアルタイムで市の状況が分かる機能がある。</li> <li>• 外でイベントできると良い。</li> <li>• 24 時間開館している。</li> <li>• BGMがかかっている空間があっても良い。</li> <li>• 既存施設の活用が必要である。</li> <li>• 吹き抜けがあり、自然光が入ってくる場にする。</li> <li>• 駐車場や駐輪場がある。</li> <li>• バリアフリーやユニバーサルデザインとする。</li> <li>• 西武鉄道との連携が必要である。</li> <li>• 人が集まる空間にして、子育て世代を増やし、人を増加させる。</li> <li>• 小学生、中学生、高校生、大学生なども含め、多世代が集まれる場にする。</li> <li>• 給水スポットを設置する。</li> <li>• ボランティアが活躍できる場にする。</li> <li>• 利用者を増やすために、高齢者のためのスペースを増加させる。</li> </ul>
-------------	--

第 1 回小川デザインカフェでは、中央デザインカフェと異なり、既に小川駅西口地区市街地再開発事業が進行していることから、具体的な話題からテーマを設定しました。進行にあたっては、その時点における再開発事業の状況などについて情報共有するなど、より参加者がテーマを検討しやすくなるよう心がけました。



## (2) 第 1 部第 2 回中央・小川デザインカフェ（12月2日）

第2回では、ワークに入る前に、第1回のデザインカフェを振り返り、第1回で出た意見やアイデアを参考にして、第2回のワークを行いました。

① 第1部第2回中央デザインカフェ

中央デザインカフェについては「誰もが使いやすい公共空間を考えよう」をテーマとして、第1回での中央エリアの未来の理想像も踏まえながら、自分たちにとっての「居心地が良い場所」とはどんなところかを考えました。



そして、グループごとに出た「居心地が良い場所」の共通点などを探しながら、どんな要素が居心地の良さに繋がっているのかを考えました。そのうえで、そういった場所になかない人はどんな人達か、どうして来られないのか、そういった人たちの居心地の良さは自分たちが出した場所とどう違うのか、などを考えました。

最後は、中央エリアにおける「居心地が良い場所」はどこだろう、あるいは、どうしていったら居心地が良くなるだろう、ということを考えて意見やアイデアを出し合いました。

■ワークで出た意見まとめ（第1部第2回中央デザインカフェ）

意見	
Aグループ	「居心地が良い場所」ではなく、「居心地が良さそうで悪いところ」の話の方が多かった。このエリアにいない人、見かけない人についても、実は「いない」のではなく、見た目では分からないけれど実は困っている人がいるのではないかという話になった。障がい者の「居心地の良い場所」についても、他の人とのコミュニケーションができる場を設けて欲しいと思う。障がい者支援関連の機能を持つ施設は、他のよく使う機能がある施設と離れたところに位置していることが多いため、それだけで使い勝手も悪く、コミュニケーションも取りづらい。新しい施設には、そういった面を踏まえて機能を複合化させるのはどうか。
Bグループ	中央エリアには、「居心地が良い場所」があるイメージがあまり浮かばなかったが、あるとすれば、公民館のロビー、Wi-Fiがあるところ、自然などの癒しの場などの意見が挙げられた。また、中高生や学生にとっては、自由に使える自習室があると居心地が良いのではないかという話になった。また、交通の便が悪いことが理由で来られない人や情報を知らない人が、その場にはいない人だと考えた。そういう人たちにとっても居心地が良くなるためには、ニーズを把握して、その分野に投資する必要もあると思う。交通面も含めて、仲間と繋がれる空間整備やインターネット環境の改善を行うことも必要だと思う。

Cグループ	<p>「居心地が良い場所」としては、図書館と公民館。特に、機能が備わっているホールとロビー、印刷室が挙げられた。これらは情報交換の場だと思っている。なかなか見かけない人としては、平日であれば仕事をしている人、全般的に見れば子ども、中高生、大学生、高齢者、障がい者だと思った。誰もが居心地が良い場づくりをするのであれば、緑がある中庭などの工夫をすること、施設の外にある自然と施設をつなぐような空間をつくること、情報を提供できて受け取ることもできること、コミュニケーションが取れること、小平らしさがあること、飲食できる売店やロビーがあることなどが挙げられた。また、対象別には、エレベーターが前後に出入りでき、バリアフリーで障がい者が使いやすいものを増やすことや、子どもや若者を呼べるよう、自習スペース、ダンスのスペースの設置をすることなどについても、アイデアが挙げられた。</p>
Dグループ	<p>「居心地が良い場所」としては、公民館、市役所、電車が見えるところなどが挙げられた。全般的に、緑を望む声が多かった。そういった場所にはいない人、見かけない人考えた時に、障がい者・若者・働き世代・高齢者が挙げられた。ただし、それらも、平日か休日、夏休みかによって、変わると思うため、もっと深く分析すべきことなのではないかと思った。そして、見かけない人やいない人の極論では、「まだ産まれていない世代」という話にもなった。そういった場所を居心地良くしていくためには、ハード面ではバリアフリー化、インフラの整備が必要だと思った。ソフト面では、人の手を借りないと外に出られない人のために、人手が必要であると考えた。</p>

第1部第2回中央デザインカフェでは、多様な人が利用しやすい施設にするにはどうしたら良いかということ念頭に意見等を出し合いました。参加者にとって、自分達の利用のことだけではなく、他者を想像し、様々な角度から検討を行うことで、深みを増した意見交換ができました。

② 第1部第2回小川デザインカフェ

小川デザインカフェでは第1回の内容を踏まえて、「公共スペースのあり方を考えよう①」をテーマとして、3機能について、第1回で「こうしたい」「こうだったらいいな」と出合った意見を基に、3機能（図書館機能、公民館機能、広めの多目的室機能）それぞれに欠かせない要素を一言にしたコンセプトを考えました。中には公共スペース全体のコンセプトを考えたいグループもありました。

【小川駅西口新建物イメージ図 12月2日時点】



コンセプトにした理由も発表し、他のグループの良い部分も取り入れ、改めてコンセプトを考え直しました。そして、そのコンセプトを実現するために、小川駅西口の新しい公共スペースにどのようなゾーニングができるかを考えてくることを次回までの宿題としました。

■ワークで出た意見まとめ（第1部第2回小川デザインカフェ）

	機能	コンセプトと内容
Aグループ	全体	<u>「本がつなく地域」</u> 図書館機能を他の機能と完全に分けてしまうのではなく、ゆるやかに図書館機能がつながっているようなイメージで、施設全体が図書館となると良いのではないかと。レファレンス機能もしっかりとあること、「ここに来れば何かがある」というわくわくした場となると良い。
	図書館	
	公民館	<u>「多様に利用できる空間」</u> 多様に利用できるということは、「使う人が使い方を考えられる空間」だと思った。例えば、和室を和室としてのみ整備すると、和室での用途にしか使えない。そのため、プロジェクター、畳、鏡、キッチン、椅子、机など、備品として様々に用意することによって、交流の場にできたり、映画を観たり、ダンスができたり、料理ができたり、会議室として使えるようにするというように、多様に利用可能なことが必要だと考えた。
	広めの多目的室	

Bグループ	全体	<p><u>「テクノロジー・エンターテイメント・デザイン(≒TED)」</u></p> <p>3つのコンセプトを繋ぐ全体コンセプトを考えた。様々なことに意識の高い人に対して、情報を提供できる場であると、より意識の高い人が住みやすく活発になるのではないかと考えた。</p>
	図書館	<p><u>「子どものための図書館」</u></p> <p>もっと子どもが学べる場が必要であると思ったので、子どもに特化するのにも良いのではないかと考えた。</p>
	公民館	<p><u>「フリーダムな公民館」</u></p> <p>用途を決めて整備するのではなく、間仕切りを用いて、会議やワーキングスペースなど様々な活用できるようにするのが良いと思う。公民館と同じような意味合いで、多目的室についても自由に使える場であることが必要だと思う。スピーチ大会なども実施できると良い。</p>
	広めの多目的室	
Cグループ	全体	<p>— ※全体コンセプト案は無し。</p>
	図書館	<p><u>「住民の居場所としてくつろげて、視聴覚で訴えかける図書館」</u></p> <p>住民がそこに訪れるとくつろぐことができ、本や専門書などもゆっくり読める空間で、視聴覚で楽しめて学びがある図書館だと良い。</p>
	公民館	<p><u>「気軽に誰でも利用できる公民館」</u></p> <p>楽しいものがある、皆で集まれる、行政機能が集まっている、社会教育の講座がある、市民の話題となるものを提供できる場であると良い。</p>
	広めの多目的室	<p><u>「気軽に利用できて行きたくなる広めの多目的室」</u></p> <p>使う目的に応じて使えることで、魅力を高められて、フリーに利用できると良い。</p>



Dグループ	全体	<p><u>「情報と絆の交差点（店）」</u></p> <p>「交差点」とは、情報と絆が交わる場所という意味でもありながら、「点」を「店」とも置き換えられるように、商店街のような情報の交差やコミュニケーションの場にもなるというコンセプトだと良いのではないかと考えた。情報と、人と、ことばと、絆をつなぐ場として、市民が誰とでもつながるような場になって欲しいと思った。</p>
	図書館	<p>コンセプトは全体コンセプトが各機能にもかかっているイメージで考えていたが、施設機能全体で大事にしたいと思った共通点は、誰でも来てゆっくりできること、開かれた場であること、多様に使える場であること、歴史がビジュアル化されていること、各機能をガイドンスできることなどが挙げられた。</p>
	公民館	
	広めの多目的室	

第2回小川デザインカフェでは、3機能（図書館機能、公民館機能・広めの多目的室機能）に関するコンセプトを考えることで、どのような施設を期待しているかについて、イメージを共有しました。



また、他のグループのコンセプトも参考にし、さらに検討するなどより良いアイデアなどにつなげられる工夫をしました。

### (3) 第1部第3回中央・小川デザインカフェ（12月22日）

第1回・第2回のそれぞれのデザインカフェを振り返り、出た意見やアイデアを参考にしながら、第3回のワークを行いました。

#### ① 第1部第3回中央デザインカフェ

中央デザインカフェについては、「公共空間の価値創造提案を考えよう」をテーマとして、第1回で出し合った中央エリアの未来の理想像と、第2回で出し合った誰もが「居心地が良い」と思える場所にするためのアイデアを踏まえて、次の4つの視点で新建物における価値創造提案を行いました。

- ①誰もが使いやすい施設としての工夫を考えよう
- ②利用者にとっての魅力を考えよう
- ③新建物を長期的に維持していくための工夫を考えよう
- ④1～3で出たアイデア等を踏まえて新建物のコンセプトを考えよう

各グループで①～④を考えた後、他のグループが考えた内容も共有し、良いところや真似したいところ、見直したいところなどについて改めて検討タイムを設け、再度詰め直した状態で発表しました。



■ワークで出た意見まとめ（第1部第3回中央デザインカフェ）

	ワーク	意見
Aグループ	コンセプト	22世紀につながる建物
	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内モニターを設置することで、施設の空き室情報や駐車場が利用できるかどうかをすぐ分かるようにする。</li> <li>・地下駐車場や立体駐車場を整備し、多くの人に来てでも駐車場を使えるようにする。</li> <li>・ストレッチャーも乗せられるようなエレベーターを設置する。</li> <li>・余裕をもって、複数のエレベーターを確保する。</li> <li>・エスカレーターを設置する。</li> <li>・トイレを清潔にし、トイレの場所は分かりやすく、使いやすくする。</li> </ul>
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や団体登録をIDやアプリで可能にし、簡単にアクセスできる環境を整備する。</li> <li>・利用予約がとれて簡単に支払いができるようにする。</li> <li>・広いオープンスペースを設置し、個別にも使えるスペースにする。</li> <li>・模型などの工作ができるような自由に使えるスペースを設置する（有料でも良い）。</li> <li>・送迎バスやコミュニティバスなどによって交通アクセスを整備する。</li> </ul>

Aグループ	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人事業主や営利企業に施設を貸し出して収入を得る。</li> <li>・ネーミングライツを導入する。</li> <li>・シンプルなデザインで維持管理しやすい素材、建材を使った建物（例えば、簡単に掃除ができるなど）にする。</li> </ul>
	コンセプト	「フラットホーム」（ふらっと立ち寄れる／小平のフラットな地形を活かす／誰にでも使いやすく、フラット／収支も工夫してフラットに）
Bグループ	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが訪れやすい建物とし、時間の使い方の意味合いも含め、最大限有効活用できる建物とする。</li> <li>・シンプルでフレキシブルな建物にする。</li> <li>・空間をパーティションで区切れるようにする。</li> <li>・けが人を搬出しやすく、災害時にも対応しやすい施設とする。</li> <li>・トイレ等、バリアフリーに配慮する。</li> <li>・屋上を活用してイベント（できれば常設イベント）を実施し、人が集まりやすくする。</li> </ul>
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おせちのイベントをやるなどして、年末年始も施設を開放し、施設をフル活用する。</li> <li>・オールナイトも可能な施設とする。</li> <li>・利用者の活動内容をHPで発信し、閲覧できるようにする。</li> <li>・防音設備を整え、ガラス張りの高品質な建物とする。</li> <li>・交通アクセスを良くする。</li> <li>・民間参入は複数店が競争できる仕組みとする。</li> </ul>
	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域通貨を導入する。</li> <li>・マルシェ、バザー、学生の絵をオークション展示するなどのイベントを実施し、マージン等で収入を得る。</li> <li>・企業とのタイアップで広告収入を得るなどの仕組みを構築する。</li> </ul>
Cグループ	コンセプト	小平コム（COME、コミュニケーション、com）
	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術、自然を大事にする。</li> <li>・世代を超えて誰もが利用しやすいバリアフリーを実現する。</li> <li>・使用料について配慮する。</li> <li>・電光掲示板の設置等を行う。</li> <li>・ドアやエレベーターは使いやすさに配慮する。</li> </ul>
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある施設とするには、人の流れが重要であるため、高層階から低層階へ人を流れさせるのが良いと考え、屋上に人を誘導できるよう、屋上に付加価値をつける。</li> <li>・行政機能を1つにし、ワンフロアに整備する。</li> </ul>

Cグループ	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜カフェや、ビアカフェを整備する。</li> <li>・夜景が見られるようにする。</li> <li>・コンサート、映画などを実施する。</li> <li>・フリースペースを整備する。</li> <li>・机の配置を自由に変えられるようにする。</li> <li>・屋上にホテルを整備し、露天風呂も整備して、その収益を利用する。</li> <li>・一つの目的に来た人も、他の階に立ち寄れる、参加出来る場とする。</li> </ul>
	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除しやすい施設にする。</li> <li>・農産物のアピールやパンフレットの設置、小平のブランドを売る。</li> <li>・どういう企業を誘致するのが重要。</li> <li>・管理を一元化する。</li> </ul>
Dグループ	コンセプト	みんなでニコニコ／健康づくり／笑顔が集まる、笑顔でつながる広場／居心地のいい新建物／ゆるーい場所 ※複数案
	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関やロビーは広くする。</li> <li>・エスカレーターも設置する。</li> <li>・可動式の仕切りで部屋の共有化を行う（それぞれの広さを確保する必要はないので、出来る限り効率よく利用できるスペースとし、デッドスペースを減らす）。</li> <li>・トイレを使いやすいにする。</li> <li>・利用電子板を設置する。</li> <li>・音声案内を設置する。</li> <li>・点字ブロックを設置する。</li> <li>・予約制のスペースと、フリースペースを分けて整備する。</li> </ul>
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間の見直しを行う。</li> <li>・座りやすい椅子を設置する。</li> <li>・高齢者世代が、カラオケや体操を行える部屋を設置する。</li> <li>・高齢者のための居場所としてサロンを設置する。</li> <li>・総合案内窓口を整備する。</li> <li>・緑を感じさせる空間づくりとする。</li> <li>・交通アクセス（バスがメイン）を充実させる。</li> <li>・女性相談機能についても配慮する。</li> </ul>
	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費を「見える化」する。</li> <li>・募金箱を置く。</li> <li>・エコチューニングの建物とする。</li> </ul>

Dグループ	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生エネルギーを活用した建物とする。</li> <li>・市の物産や備品などを販売する。</li> <li>・催し物をして、入場料を寄附する。</li> <li>・バザーの場所代を取るなどして、料金を取る。</li> <li>・利用料金を有料にし、サービスを充実させる。</li> <li>・健康づくりのために、庭や施設内にウォーキングスペースを整備する。</li> <li>・屋上庭園を整備する。</li> </ul>
-------	---------------	--

第3回中央デザインカフェでは、これまでの意見やアイデアを「誰もが使いやすい工夫」、「利用者にとっての魅力」、「長期的に維持するための工夫」に整理し、新建物のコンセプトとして発表するまでワークを進めました。

少しずつ、具体的なテーマへと段階を踏みつつ、第1部としてはコンセプト出しまで進め、第2部ではより具体的な検討を進めることとしました。

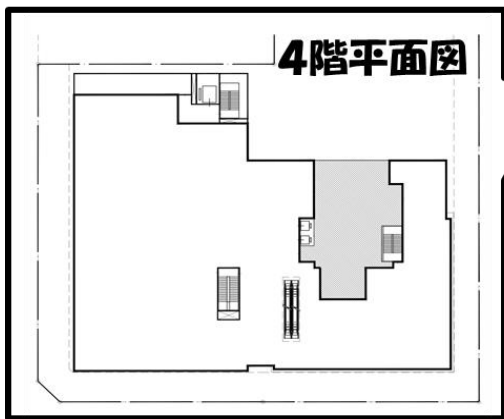
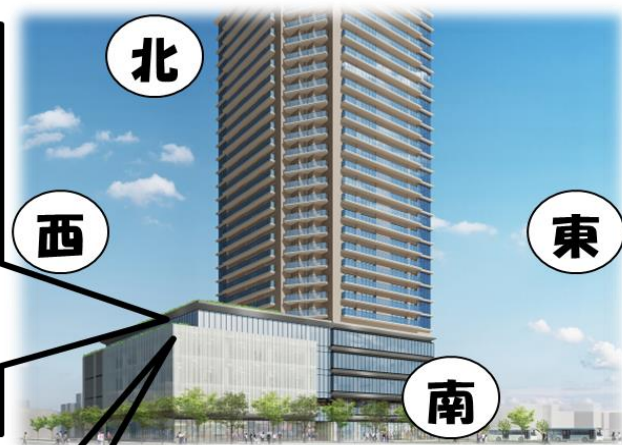
## ② 第1部第3回小川デザインカフェ

小川デザインカフェについては、「公共スペースのあり方を考えよう！②」として、第1回、第2回で出てきた、図書館機能・公民館機能・広めの多目的室機能の3つについて求める要素と、それぞれのコンセプトを基に、小川駅西口の新しい公共スペースである4階・5階の白図を見ながら、ゾーニングを考えるワークを行いました。

各グループで検討した後に、他のグループからアイデアの説明を受ける時間を設け、良いところを盗んだりアイデアを練り直したりしたうえで、各グループの最終案を発表しました。



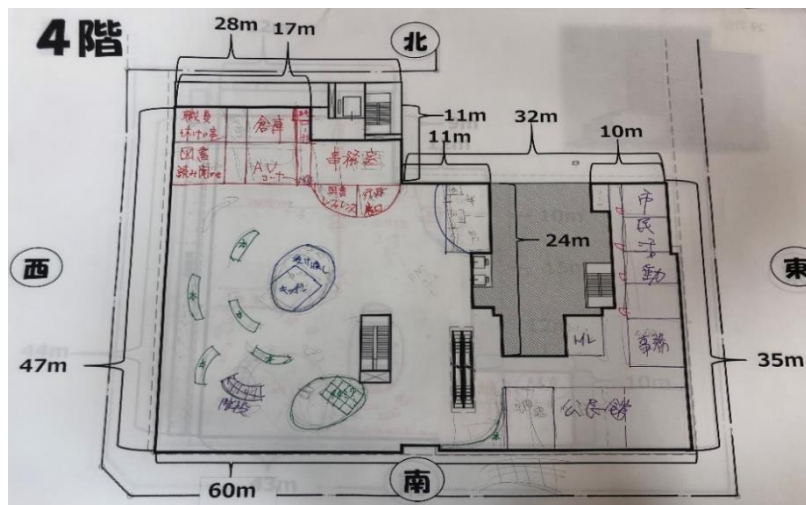
【小川駅西口駅前ができる新たな建物完成イメージ 12月22日時点】



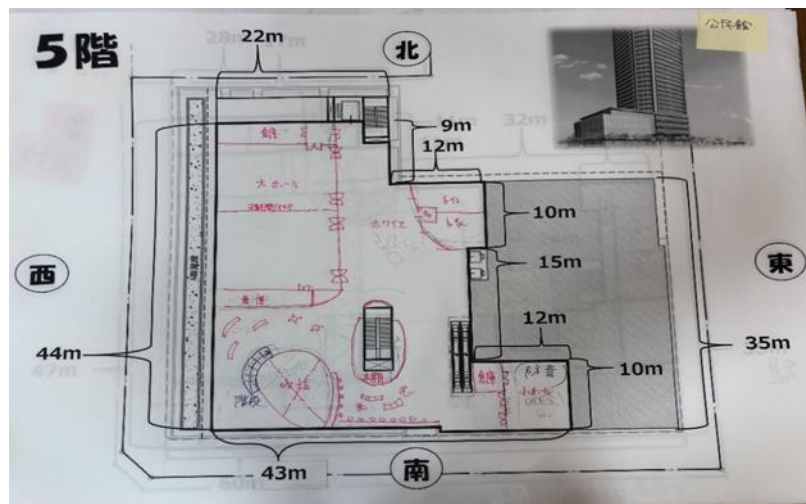
■ワークで出た意見まとめ（第1部第3回小川デザインカフェ）

**Aグループ**

- 全体：コンセプトを「本がなくなぐ」としているため、そのコンセプトに合った配置とした。本が色々な所に取り、各機能が混ざり合った配置にしている。空いているスペースには、休憩スペースを配置している。
- 4階：北側に事務スペースや図書貸し出し機能など行政サービス機能を配置し、図書スペース内に、カフェやキッチンを設置した。東側に、公民館機能として、市民活動スペースを配置した。可動式のスペースを設け、小規模な活動を行える場とした。



- 5階：北西側に、200~300名が収容できる広めの多目的室を配置している。ただし、この多目的室は、稼働式とし、間仕切りで多様に活用できるようにした。ホワイエも設置した。



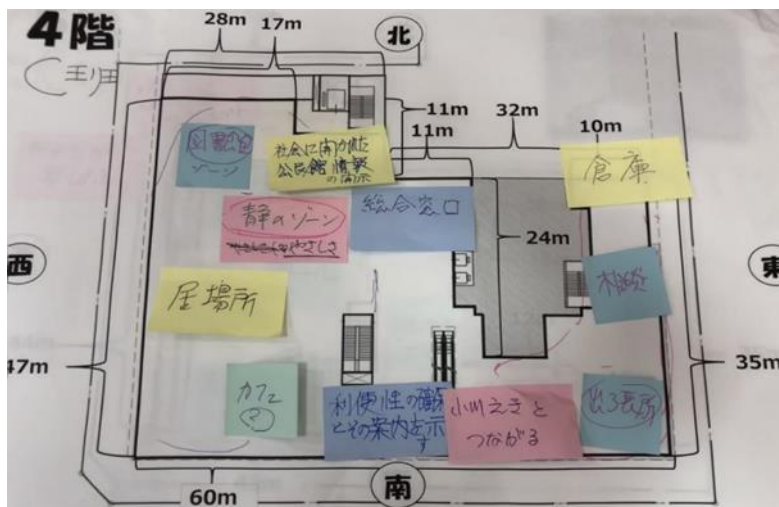
- その他：4階から5階に、吹き抜けにし、本が繋ぐ森のようなイメージで考えた。



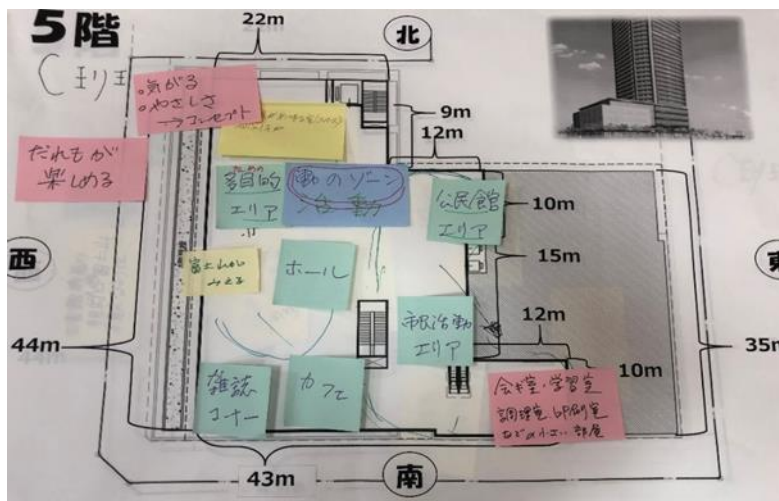


### Cグループ

- 全体：「優しさ」を切り口に、サービスや施設機能を考えた。4階を静ゾーン、5階を動ゾーンと位置付けた。静ゾーンでは、静かに勉強できる空間とし、動ゾーンでは、活動系のスペースを配置した。
- 4階：図書館機能を配置し、子どもや高齢者に関する機能を配置した。また、コーヒーを飲めるスペースも配置した。東側には、使い勝手がいいように、総合案内窓口や出張所機能を配置した。

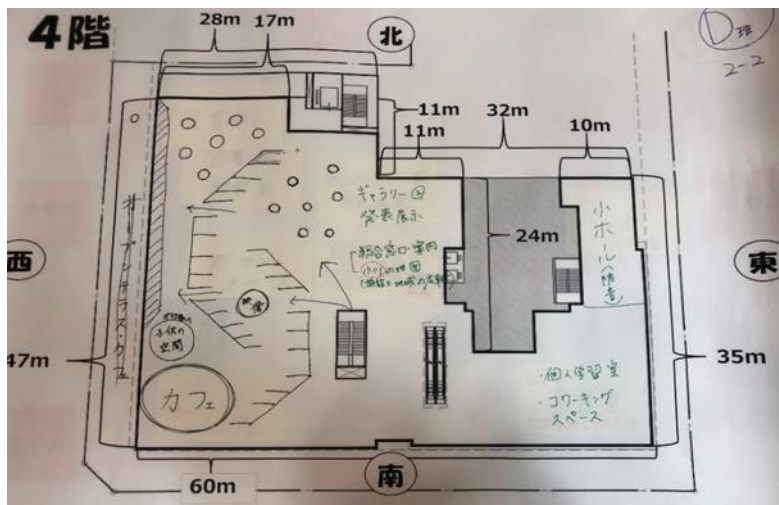


- 5階：富士山を見ながら活動できるようにするため、西側に広めの多目的室を配置した。その他、西側にカフェ機能や公民館機能を配置した。

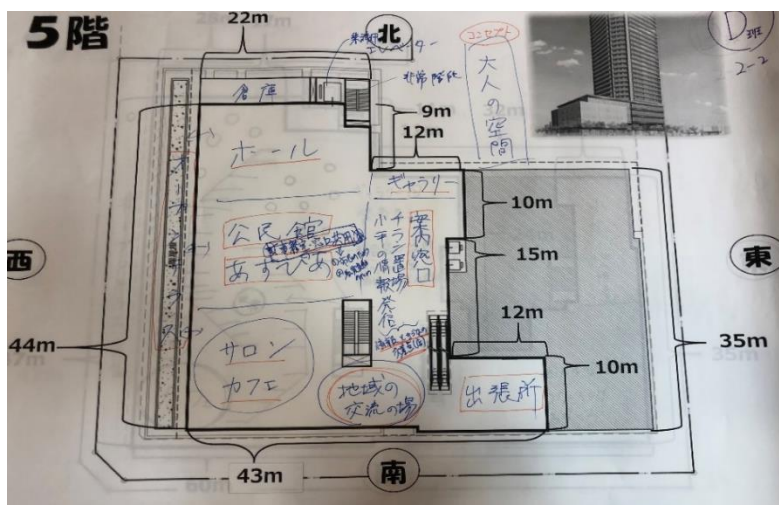


## Dグループ

- 全体：本に囲まれているイメージで配置した。場所によっては、映像が見られる場所、電子機器で調べられる場所を考えた。前提として、コンセプトである「交差点」と「交差点」を中心として、検討した。
- 4階：階段を上がったら、すぐエントランス機能やギャラリー機能、総合案内窓口、地域の案内機能があるように配置した。また、東側に、音楽をする人が使える小ホールを配置し、コワーキングスペースなども配置した。西側に、おしゃべりしながら勉強できる自習室も配置した。南西側には、子どもスペースやカフェを配置した。



- 5階：5階は、全体的に大人の空間とした。総合案内窓口（小平全体の案内も含む）、広めの多目的室機能を配置した。その他、あすびあに係る機能は、市民活動系のエリアの近隣に配置し、業務の効率化へつながるように、ロッカーや印刷機を共同で活用することとした。西側には、カフェ付きオープンスペース、地域活用スペースを配置した。出張所機能は、目立たないところに配置した。



第3回小川デザインカフェでは、前回考えた3機能（図書館機能、公民館機能、広めの多目的室機能）に関するコンセプトに対するゾーニングを描くことで、使い勝手まで想像しながら意見交換やアイデア出しを行いました。参加者は、実際の活動を具体的に想像しながら、意見交換をしていました。なお、全てのグループが、広めの多目的室については、5階の北西側に配置していました。

**【ぶるべーからのお知らせ】**

中央・小川デザインカフェの様子は、速報として「小平市公共施設マネジメントニュース」でもお知らせしてきました。

今後もニュースなどで、公共施設マネジメントの取組をお知らせしていきます。

ニュースは、市ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください！



### 3 第2部中央・小川デザインカフェ

#### (1) 第2部第1回中央・小川デザインカフェ（1月19日）

第2部第1回中央・小川デザインカフェでは、第1部の第1回から第3回までを振り返り、出た意見やアイデアを参考にしながら、第2部で目指す目標も踏まえながらワークを行いました。

##### ① 第2部第1回中央デザインカフェ

中央デザインカフェについては、「新建物に期待する機能を整理しよう！」というテーマとして、第1部全体を通して出された新建物への提案を踏まえ、ワーク1として、「誰もが使いやすい施設の工夫」「利用者にとっての魅力」「長期的に維持するための工夫」のそれぞれについて議論を深めるために3グループに分かれ、グループごとに各テーマを整理しました。ワーク2は、それらの実現のために考えられる課題や懸念事項、代替案などを考えました。

##### ■ワークで出た意見のまとめ（第2部第1回中央デザインカフェ）

	ワーク	意見
誰もが使いやすい施設の工夫担当	誰もが使いやすい施設のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車場と駐輪場を充実させる。</li> <li>・ エレベーターとエスカレーターを充実させる。ストレッチャーが入る程度のエレベーターを設置する。</li> <li>・ トイレのバリアフリー化をする。</li> <li>・ わかりやすい場所にトイレを設置する。</li> <li>・ 年末年始も利用可能にするなど、利用時間帯を広げる。</li> <li>・ 空きスペース（屋上など）の有効活用をする。</li> <li>・ どういった団体が施設を利用しているか、電子掲示板に表示する。また、インターネットと電子掲示板の掲示を連動させる。</li> <li>・ 利用料の免除をする。</li> <li>・ ロビーの拡充などをして災害時の対応を行いやすいようにする。</li> </ul>
	課題・懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車場の利用台数の調査（需要と供給のデータ）が必要。</li> <li>・ 駐車場の不足時の対応を検討しなければならない。</li> <li>・ 空きスペースの活用方法を考える必要がある。</li> <li>・ エレベーターやエスカレーターのコストや設置場所の問題がある。</li> <li>・ L G B Tの方のトイレ利用をどうするか検討する必要がある。</li> </ul>

誰もが使いやすい施設の工夫担当	課題・懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの整備について、利用するとき音が漏れたりすると利用しづらくなるため検討する。</li> <li>・年末年始の利用拡充に関しては、職員のコストや予約の対応が課題である。</li> <li>・屋上を活用するときの安全面の確保が必要である。</li> <li>・前例のないことはしないという姿勢自体が課題である。</li> <li>・IT化を進めた際、ネットを使わない方への対応をどうするかが課題である。</li> <li>・利用料の無料化の難しさも課題である。</li> <li>・今後の財政状況を見据え、予算の配分に関して住民が理解することが必要である。</li> <li>・ロビーの確保に関してはスペースの確保が必要である。</li> </ul>
	代替案や対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場を利用しないときは、市民活動用に利用する。駐車場が空いていないときは、民間の駐車スペースを利用する。</li> <li>・トイレや授乳室などはできるだけ近くに設置する。</li> </ul>
利用者にとっての魅力担当	利用者にとっての魅力のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通アクセスが良いこと。(小川町一丁目や仲町の人たちも来られるような交通アクセス)</li> <li>・日常的に利用できること。</li> <li>・接客が温かい対応であること。</li> <li>・フリースペースが広くあること。</li> <li>・いろいろな人がコミュニケーションをとれる場所であること。</li> <li>・防音や音響設備が充実していること。</li> <li>・自然環境と調和していること。</li> <li>・利用者が安全に使えること。</li> <li>・利用時間帯が長いこと。</li> <li>・客寄せパンダのような、人を引き寄せるようなものがあると良い(カラオケやホテルが高層階にあるとか、クリニックなどがあると、そこに行くついでに市民活動に参加することが可能)。</li> </ul>
	課題・懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣市に似た機能があると魅力が半減する。</li> <li>・近隣市で再開発をしているところがたくさんあるが、他市との関連や関係性を見ながら検討すべきである。</li> <li>・お金(人件費、利用料)などの課題がある。</li> <li>・貸出の物品は公民館など特定の施設内だけで完結しているが、他の施設で利用できないという課題がある。</li> </ul>

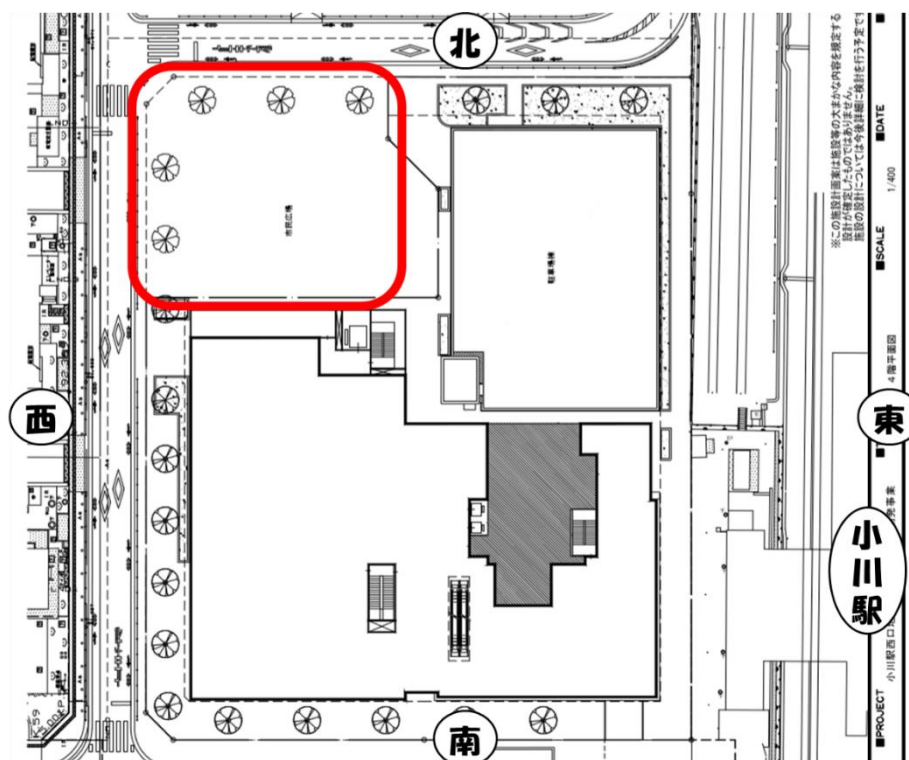
利用者にとっての魅力担当		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラオケボックスやホテル、クリニックなどを設置したとしても、その後も変わらずに利用ニーズが継続するかが不明確である。</li> </ul>
	代替案や対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用方法に柔軟性のある空間にすることが大事である。保育園や高齢者の施設に変更できるような仕様にする。状況に応じて、中身は移り変わっていけるような施設とする。</li> <li>・物品の貸し出しに関しては、1か所で管理して、いくつかの施設で共有することで、余りなどを減らす。</li> <li>・お金の部分では、自己収入を増やしていく。施設利用料以外のクリニックや保育所などによるテナント料、有料貸出物品などでオプションとして収入を得ていく。</li> </ul>
長期的に維持するための工夫担当	長期的に維持するために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギー（ソーラー）などを利用し、経費削減につなげる。</li> <li>・屋上庭園を整備する。夏の猛暑対策にもなる。</li> <li>・お金を払ってでも利用したいオプションをつける。</li> <li>・市の物販や農産物などで小平ブランドを売る。利益分の一部をいただくなどの工夫をして、JAとも良い関係で取り組む。</li> <li>・個人事業主や営利企業に施設を貸し出す。</li> <li>・ネーミングライツや企業の広告収入を得る。</li> <li>・募金箱を設置する。</li> <li>・地域通貨を導入し、子どもやお年寄りもボランティアをすると利用料が払えるようにする。</li> </ul>
	課題・懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上庭園にするには、施設を頑丈にする必要がある。</li> <li>・条例改正が必要など、税金以外で歳入を増やすこと、お金を捻出することは難しい。</li> </ul>
	代替案や対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用料金を有料にし、価値あるものを増やしていく。</li> <li>・小平版「uber」のような自動車配車サービスを行う。</li> </ul>

第2部第1回中央デザインカフェでは、話題が具体的になるにつれ、より深く議論するため、またそのための時間を確保するため、これまでの4グループ編成から3グループ編成に変更し、また議論する話題もグループごとに担当を決め、振り分けるなどの工夫を行いました。参加者同士のより活発な意見交換がなされました。



② 第2部第1回小川デザインカフェ

小川デザインカフェについては、第1部で小川駅西口に新しくできる公共スペースのゾーニング案を考えました。第2部の初回は、敷地内にできる市民広場について、「市民広場の活用方法を考えよう！」というテーマのもと、ワーク1として「市民広場でどう過ごしたいか、どんな企画があったら嬉しいかを考えよう」とし、ワーク2として「市民広場で過ごすための市民ルール案と企画ルール案を考えよう」とし意見やアイデアを出しました。



■ワークで出た意見のまとめ（第2部第1回小川デザインカフェ）

	ワーク	意見
Aグループ	市民広場でどう過ごしたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩の休憩、本を読むなど、ゆっくりしたい。</li> <li>買い物や食事、行事などで訪れて過ごしたい。</li> <li>子どもが遊べる場として過ごせるようにしたい。</li> </ul>
	市民ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールはあまりない方がよい。</li> <li>アルコールはOKとする。</li> <li>ごみは持ち帰る（「来た時よりも美しく」というスローガン）。</li> <li>市民団体が使いやすいように、予約できるようにする。</li> <li>予約が入ってないときは、誰でも使えるようにする。</li> </ul>

Aグループ	市民広場で どんな企画が あったら嬉しいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩などの場合は、椅子を設置して休める。</li> <li>・季節ごとのイルミネーション企画。</li> <li>・野外映画の上映。</li> <li>・フリーマーケットの開催。</li> <li>・ダンスの団体、大道芸など普段練習している人たちが、練習と発表の両方に使える場所であること。</li> <li>・市民が実行委員会を作って、NPOフェスタなどを開催できる。</li> <li>・これから企画していくだけではなく、既存のイベント（八雲祭）にも活用してもらえる場所にする。</li> <li>・子どもが遊ぶ場所として、球技やプレーパーク（親が子どもに遊びを教えたり、遊んだりする）があること。</li> </ul>
	企画ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営利のみを目的とした活動はなしとする。</li> <li>・野外で音楽や映画上映を行う場合、音や光のルールは決めたほうが良い。</li> <li>・みんなが使えるような方法で使えると良い。</li> <li>・誰でも予約して使えるのではなく、活動の内容を事前に審査して、利用するようにする。</li> </ul>
Bグループ	市民広場でどう 過ごしたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑豊かな木に囲まれて、芝生の上で寝転んで過ごしたい。</li> <li>・芝生の上でお茶をするなど飲食可能にしたい。</li> <li>・木陰のベンチで本を読んで過ごしたい。</li> <li>・子どもが遊べる小川があると良い。</li> <li>・足湯を設置し、大人がゆっくりできる場所があると良い。</li> <li>・音楽を演奏したり聞いたりできるステージが欲しい。</li> <li>・水道も設置して欲しい。</li> </ul>
	市民ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気遣い、譲り合い、緑を大切にする。</li> <li>・騒音関係でうるさくなると揉めるため、音を出すのは21時までとする。</li> <li>・ペットの管理を徹底する。</li> <li>・ごみはきちんと持ち帰る。</li> <li>・喫煙禁止とする。</li> <li>・自転車は公共のパーキング、自動車は民間のパーキングを使用する。</li> </ul>
	市民広場で どんな企画が あったら嬉しいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニコンサートなどができる。</li> <li>・フリーマーケットなどでのチャレンジショップ（学生も出店や発表ができる）ができる。</li> </ul>



Bグループ	市民広場でどんな企画があったら嬉しいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西武ライオンズやF C東京、ブリヂストン、西武鉄道と連携したイベント。</li> <li>・リサイクルの拠点として、学生の制服などをリサイクルできる企画。</li> </ul>
	企画ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業能力開発総合大学校との連携で、イベントを実施する。</li> <li>・ステージでの演目を小平だけではなく、近隣自治体と一緒にやる。</li> </ul>
Cグループ	市民広場でどう過ごしたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生で昼寝をしたい。</li> <li>・思い思いに自由に過ごしたい。</li> <li>・待ち合わせ場所などに活用したい。</li> <li>・子どもも安心して遊べる場所として過ごしたい。</li> <li>・自分の活動を発表したい。</li> <li>・開設日に記念祭をしてはどうか。</li> <li>・四季の移ろいを感じ取りたい。</li> </ul>
	市民ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミをきちんと出す。</li> <li>・お酒は飲酒エリアで飲む。</li> <li>・ハラスメントはなし。</li> <li>・大声は出さないなど公共マナーは守る。</li> <li>・撮影するときは了解を得てからとする。</li> </ul>
	市民広場でどんな企画があったら嬉しいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青空教室、子どもが喜ぶD I Yなどの企画。</li> <li>・バラの手入れの仕方講座。</li> <li>・季節をテーマにしたイベント。</li> <li>・小川の歴史、郷土資料を学ぶイベント。</li> <li>・フリーマーケットで利用品の交換会を行う。</li> <li>・イルミネーション企画。</li> <li>・ゲーム企画。</li> <li>・動物と一緒に遊べる企画。</li> </ul>
	企画ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お酒は飲んでも飲まれるな。</li> <li>・昼間の飲酒はNGとする。</li> </ul>
Dグループ	市民広場でどう過ごしたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくり（読書、雑談、お昼寝、安らげる、など）したい。</li> <li>・カラダを動かしたい（キャッチボール、壁打ちなど）。</li> <li>・ステージで発表などをしたり、鑑賞したりしたい。</li> <li>・土でできた場所、水遊びができる場所、植物を楽しめる場所として過ごしたい（花壇、花見）。</li> </ul>
	市民ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広場をきれいにみんなで使って欲しい（ゴミ箱を工夫して、ごみ捨てが楽しくなるような工夫）。</li> </ul>

Dグループ	市民ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交番が目前にあるので、抑止力になると思う。</li> <li>・予約制の場所と予約なしの場所と、両方があると良い。</li> <li>・予約はあったとしても簡単な予約とする。</li> <li>・夜間は静かにする。</li> <li>・使っている人たちが楽しく使えるようにする。</li> </ul>
	市民広場で どんな企画が あったら嬉しいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリチストンや西武鉄道など地域にある企業や施設とコラボする。</li> <li>・季節ごとにイベントを開催（夏に水遊び、花火ができる日、冬にイルミネーション、小学校や中学校の学生を呼んで、合唱やコンサートのフェス開催など）。</li> <li>・地域の自家栽培をしているものを販売できる企画。</li> </ul>
	企画ルール案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージがあることが前提だが、空いている場があれば、誰でも利用できるようにする。</li> <li>・曜日ごとにルールを設ける。</li> <li>・月に1回はお酒イベントなどを開催するが、クレームが出ないように実施する。</li> <li>・タバコやお酒も空間で分ける。</li> <li>・ドッグランがあっても良い。</li> </ul>

第2部第1回小川デザインカフェでは、市民広場の活用方法について考えることで、小川駅西口公共スペースが建物内だけでなく、屋外の活用もあることを認識するとともに、参加者からは屋外ならではの多様なイベント企画が出ました。また、市民広場を市民が気持ちよく使うためのルールも考え、行政だけではなく市民も協働するといった視点でも検討を行いました。



## (2) 第2部第2回中央・小川デザインカフェ（2月17日）

第2部第2回中央デザインカフェでは、第2部第1回の続きとしてさらに深めるワークを行いました。小川デザインカフェでは、誰もが楽しめるにぎわいの場にすることを考えるワークを行いました。

① 第2部第2回中央デザインカフェ

中央デザインカフェについては、前回同様、「誰もが使いやすい施設の工夫」「利用者にとっての魅力」「長期的に維持するための工夫」のそれぞれについて議論を深めるために3グループに分かれました。今回は「新建物の運営方法などを考えよう！」というテーマとして、次のワークを行い、グループごとに考えました。

- ①ワーク1 財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点
- ②ワーク2 市民が企画を持ち込んで活用するための視点
- ③ワーク3 民間を巻き込んで地域のにぎわいを維持する視点
- ④ワーク4 地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点
- ⑤ワーク5 この施設で働くために求められる視点

中央デザインカフェの第2部については、第1回目から最終回の第3回目まで、毎回同じように「誰もが使いやすい施設の工夫」「利用者にとっての魅力」「長期的に維持するための工夫」の担当班に分かれて議論を重ねていくような構成にしていたため、第2回については、意見をまとめずに、このワークでの感想を各グループから出しました。

■ワークで出た感想のまとめ（第2部第2回中央デザインカフェ）

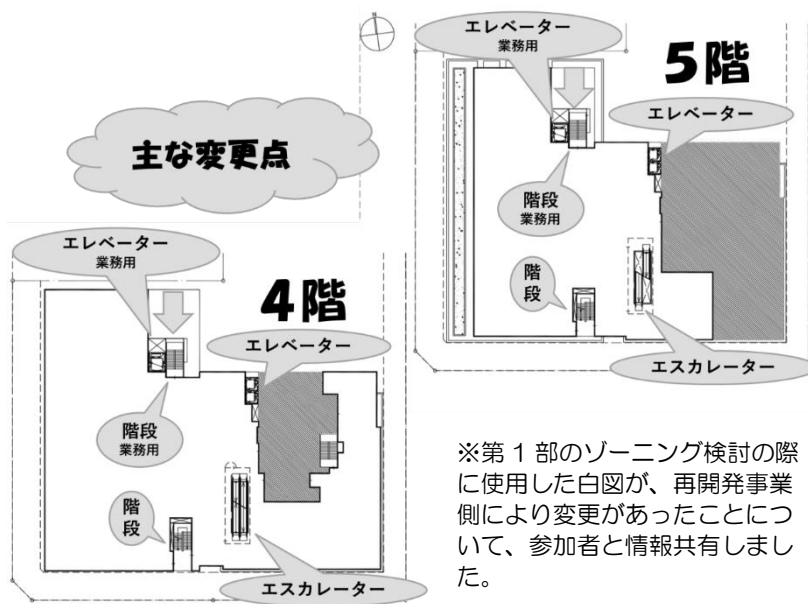
誰もが使いやすい施設の工夫担当	一番難しかったのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが働きやすい、接しやすいためには、という「この施設で働くために求められる視点」は難しかった。施設の問題なのか、制度の問題なのか、特に非正規職員や嘱託職員の雇用期間などの話に集中してしまった。</li> <li>・正規職員であれば別であるが、非正規職員が多いと、働きやすい環境を考えるのは難しいのではないかな。</li> </ul>
	一番盛り上がったのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが働きやすい、接しやすいためにという「この施設で働くために求められる視点」が盛り上がった。</li> </ul>
	一番みんなに伝えたいのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点」で、子どもたちが集まれるフリースペースは必要だと考えている。今の中央公民館などそうだが、何となく子どもたちが集まれるスペースとなっている。子どもたちがふと立ち寄れるように、ちょっとした飲み物や食べ物があると良いのではないかな。</li> <li>・子どもたちが集まれるスペースがあると、小さい子どもを連れて、子育て世代のお父さんやお母さんも訪れやすくなるのではないかな。</li> </ul>

利用者にとつての魅力担当	一番難しかったのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部難しかった。</li> </ul>
	一番盛り上がったのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク1の「財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点」で、内容としては、受付窓口を改良するのが良いのではないかということ。総合的に対応する受付窓口と、専門的な受付窓口の2か所に分けて、病院のように2段階に分けて受付窓口をつくることを考えた。</li> <li>・接客対応をしっかりとすることが良いのではないか。</li> </ul>
	一番みんなに伝えたいのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの対応で、笑顔で、コンサルタントのようなことをしてくれる人がスタッフとして配置されていると良いのではないか。</li> <li>・全体的な業務をある程度わかっていて、利用者が持ってきた問題に対して、解決してくれる人がいると良いのではないか。</li> </ul>
長期的に維持するための工夫担当	一番難しかったのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「民間を巻き込んで地域のにぎわいを維持する視点」で長期的維持を検討することが難しかった。長期的維持は、ハード面かソフト面か何なのか。省エネや耐震機能など、誰もが行きやすい場所は誰でも使いやすいのではないか。何か特別なものは無くてもいいので、使いやすい施設が良いのではないか。</li> </ul>
	一番盛り上がったのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使いやすさに関する話題は盛り上がった。</li> <li>・NOと言わない公務員がいると良いのではないか。</li> <li>・市民がやりたいことを行政が応援してくれるような、実現に向けてサポートしてくれると良いと考える。</li> </ul>
	一番みんなに伝えたいのは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要望に対して柔軟に対応してくれて、市の職員も市民も一緒にネットワークを作り、利用者皆で盛り上がっていくことが大切ではないか。</li> <li>・施設全体を統括するまとめ役がいると良いのではないか。</li> </ul>

最終回となる第3回中央デザインカフェではさらに意見交換を進め、中央デザインカフェとしての成果につなげていくことにしました。

② 第2部第2回小川デザインカフェ

第2部第2回小川デザインカフェでは、4・5階も市民広場も含めて、「誰もが楽しめるにぎわいの場を考えよう！」として、グループごとに、まず新しい施設に自分がどのように訪れたいか、過ごしたいかを次のようなワークシートに書き込みながら考えました。



【設定】① 平日 or 土日祝日 / ② 誰と? ( ) / ③ 主に何をしに? ( )			
時間	過ごし方	過ごしたくなるポイント・アイデア	運営のポイント・工夫
7:00			
8:00			
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00			
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			

過ごし方がより充実したものになるためには、どのようなサービスがあって欲しいか、またそのサービスを提供するにはどのような運営が必要か、という点も考えました。グループ内で、各々の理想の過ごし方を記載したワークシートを発表し、共通点や相違点を探してグループのメンバー全員にとって楽しめるにぎわいの場、過ごしやすい場になるためにはどうしたら良いかを考えました。

最後に、自分がこの施設で働くとき、どのように働きたいか、あるいは、どんなスタッフがいたら嬉しいか、という目線でも考えました。

■ワークで出た意見のまとめ（第2部第2回小川デザインカフェ）

	ワーク	意見
Aグループ	過ごし方の共通点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体登録をして利用する。</li> <li>・フリースペースで集まってサークル活動をする。</li> <li>・フリースペースで自己研鑽をする。</li> <li>・お散歩コースの一つとして日常的に使う。</li> </ul>
	過ごし方の相違点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの目的が異なるところが相違点である。</li> </ul>
	みんなの望みを叶えるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも使える、大人も子どもも身体障がい者も使えるスペースとする。</li> <li>・時間に縛られないで、館内に入れるようにする。</li> <li>・フリースペースを自由に使えるようにして、食事や活動の合間で休憩をするほか、予約はしないが、地域センターのような使い方ができると良いのではないかな。</li> <li>・日常的に散歩や自己研鑽をする人も、掲示板で他の利用者の活動が分かるようになると良いのではないかな。</li> </ul>
	どんな風に働きたい／どんなスタッフにいて欲しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔や接遇がいい人がいる。</li> <li>・地元のことが分かっている、社会的要望に対応してもらえ、地域コーディネーターのような人がいると良いのではないかな。</li> <li>・一か所で全て案内できるような窓口があると良い。</li> </ul>
Bグループ	過ごし方の共通点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べる、飲む、子どもと過ごす、学ぶ、サークル活動、映画、音楽活動、体を動かす、料理、読書。</li> </ul>
	過ごし方の相違点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼寝をしながら読書をしたい。</li> <li>・寝転んで何かをしたい。</li> <li>・バスや電車の待ち時間を有効に使えると良い。</li> <li>・育児や子育ての相談、目の不自由な方への対応をしっかりとしたい。</li> </ul>
	みんなの望みを叶えるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館に限らず、長時間の営業。</li> <li>・レストランやカフェの充実。</li> <li>・映画などが鑑賞できる視聴覚室。</li> <li>・子どもの一時的預かり（保育園や学童保育）。</li> <li>・大きなソファがあると寝転がることできる。</li> <li>・点字ブロックなどの整備が必要ではないかな。</li> </ul>

Bグループ	みんなの望みを叶えるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 部屋を区切って使えるようにすると利便性が高い。</li> <li>• 時間によって空間を区切ることができる。</li> </ul>
	どんな風に働きたい/どんなスタッフにいて欲しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門的なカウンセラーや遊びの専門家などが「おせっかい」で必ず声かけをする人がたくさんいる。おせっかい活動。</li> </ul>
Cグループ	過ごし方の共通点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 午前中は活動的に過ごす。</li> <li>• 午後はリラックスタイム、友人と過ごす、昼寝をする。</li> </ul>
	過ごし方の相違点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 夜は活動的にしたい人と、仕事の疲れなどを癒したい人（趣味や休養）とに分かれる。</li> </ul>
	みんなの望みを叶えるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それぞれの過ごし方を尊重し、空間を間仕切りなどで区切る。</li> <li>• 防音性能に関する整備をしてはどうか。</li> <li>• いろいろな悩みを抱えた人が夜でも昼でも相談できるような場所があると良いのではないか。</li> <li>• 24時間営業だと良いのではないか。</li> <li>• この場所を良くするために、みんなのニーズを集めるような傾聴会的なことをすると良いのではないか。</li> <li>• Face to Faceが良い。</li> </ul>
	どんな風に働きたい/どんなスタッフにいて欲しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 世代を超えた職場環境はどうか。</li> <li>• 若い人や外国人、様々な人たちが働ける場所が良いのではないか。</li> <li>• 新たな気づきのある職場はどうか。</li> <li>• その道のプロのスキルは必要ではないか。</li> <li>• 偉そうにしない、説教をする人がいない環境はどうか。</li> </ul>

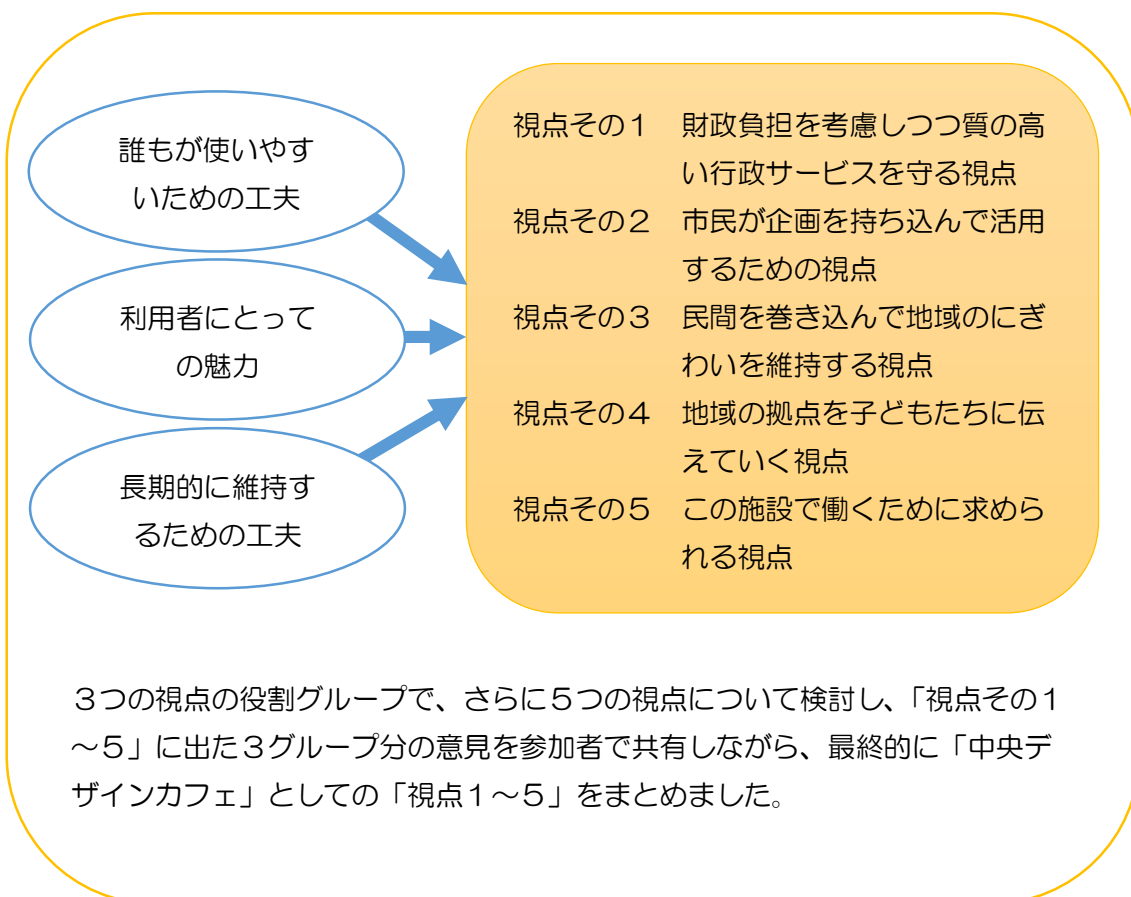
第2部第2回小川デザインカフェでは、ワークの中で参加者が新しい施設での一日の過ごし方を想像した上で、サービスについて考えたことから、ライフスタイルと施設との関係をイメージすることができました。また、参加者同士でも時間の過ごし方について、共通するところのみならず、異なることについても相互に認識できたことで、互いに共存することに関するアイデア出しもでき、有意義なものになりました。

### (3) 第2部第3回中央・小川デザインカフェ（3月17日）最終回

最終回の中央・小川デザインカフェでは、これまでの第1部及び第2部のデザインカフェを振り返ったうえで、各デザインカフェの成果につなげていくために、議論を詰めていく作業を行いました。

#### ① 第2部第3回中央デザインカフェ

第2部中央デザインカフェでは、「誰もが使いやすい施設の工夫」「利用者にとっての魅力」「長期的に維持するための工夫」について議論を深めるために、それぞれの視点に役割分担した3グループ編成で進めてきました。最終回のテーマ「地域に愛される新建物を目指そう！」のために必要なことは何か、改めて、第2回のワークで考えた5つの視点について、参加者で出し合った意見を共有し、最終的にグループごとではなく参加者として、各視点の成果としての意見をまとめました。





■ワークで出た意見のまとめ（第2部第3回中央デザインカフェ）

視点	意見（成果）
視点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央エリアの魅力である駐車場スペースは十分に確保し、施設利用者の負担はあまりかけないように無料にしたいが、場所や時間帯によっては、一部有料化などの工夫をして、財政収入を得ることを検討することも必要ではないか。</li> <li>・複合させる機能の窓口業務を1つにすることで、効率的かつサービスの質の向上へつなげていくことができるのではないか。</li> <li>・案内、広報、企画など、アウトソーシングしていくことも考えて、効率的なコスト削減を行うことと、それによる民間ノウハウの活用により、サービスの質の向上も目指していくのが良いのではないか。</li> </ul>
視点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校とも連携した幅広い周知をしていくことと、市民活動登録団体への活動情報の発信を充実させていきたい。</li> <li>・これからのイベント発信はもちろんのこと、過去のイベント情報のアーカイブ化によって、公共施設でできることを見つけやすくしていくと良いのではないか。</li> <li>・企画立案から企画の実現に至るまでの段階を分かりやすくステップ化し、段階毎のフォローサービスや関係団体、類似団体とのマッチングサービスがあると良いのではないか。</li> <li>・商業目的の企画や事業者等に対して、公共施設であるため、営利目的が主ではいけないし、とはいえイベントやにぎわいづくり、維持管理の仕組みには関わっていて欲しいとなった場合、どのようなルール設定をしていくか検討していかなければならない。</li> </ul>
視点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者が地域に貢献でき、かつビジネスにつながる要素があることが必要ではないか。</li> <li>・民間（市内事業者含む）企画を野放しにせず、チェックをし、マッチングさせる場（行政と市民が協働の組織）を考えていくと良いのではないか。</li> <li>・施設と周辺エリアを情報でつないで、連携させる工夫があると良いのではないか。</li> </ul>
視点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と連携して新たな公共施設の利用を促し、かつ、学生たちのニーズ調査をしていく取組をした方が良いのではないか。</li> <li>・入りやすいエントランス、自由に過ごせるロビーなど、子どもたちの過ごしやすい場所を演出することが大事ではないか。</li> <li>・工具などの道具の充実や、プラレールなどの小さい子どもがわくわくするおもちゃの充実などの工夫によって、家や学校ではできない体験の場にすると子どもたちも行きたくなるのではないか。</li> </ul>

視点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども食堂などとの企画の連携や空間づくりの工夫などで、多世代交流の場とすることが子どもたちの思い出や愛着につながり、子どもでなくなっても活動をつないでいくことにも結び付くのではないか。</li> <li>・周辺学生や地域の人たちのボランティアで、地域の子どもの空間を守るような取組ができるよう体制を構築していくことが大事ではないか。</li> </ul>
視点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く人のモチベーションを維持して、やる気のある人を集めていく工夫が必要ではないか。</li> <li>・アウトソーシングをしても、市と事業者等との体制もしっかりと構築されていて、対応がスムーズに進むようにすることが大事ではないか。</li> <li>・利用者とのコミュニケーションをしっかりと、笑顔溢れる施設にしていこうことや施設のネーミングを大事にしていこうことが大切ではないか。</li> </ul>

中央デザインカフェを通して、最終回では「誰もが使いやすいための工夫」、「利用者にとっての魅力」、「長期的に維持するための工夫」を各グループで、5つの視点でさらに深く議論し視点ごとに発表しました。それぞれの視点ごとに共通点を見出し、新建物に対するイメージをより具体化することに近づけました。5つの視点で考えることは、参加者にとって難しかった側面もありましたが、現実を見据えた意見などが多数出るなど、新建物に対する参加者の意見などを一定程度に形づけることができました。

## ② 第2部第3回小川デザインカフェ

小川デザインカフェについては、第1部で考えてきたゾーニング、第2部第1回で考えた市民広場の活用方法、そして第2部第2回で考えてきた様々な人たち、みんなが過ごしやすいためにはどうしたら良いかということを取り返しながら、「小川駅前の未来予想図を描こう！」をテーマとして、以下の4つのワークを通じて小川デザインカフェとしての成果につなげていきました。中央デザインカフェでは、最後に1つの意見にまとめましたが、小川デザインカフェについては、すでに決まっているハードに対してソフト面のアイデアを出していく意味で、グループごとの意見のまとめをしました。

- ①ワーク1 「こんなことがしたい!」「こんな風に使いたい!」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組を考えよう
- ②ワーク2 次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組を考えよう
- ③ワーク3 4・5階の公共床と市民広場のつながりを考えよう
- ④ワーク4 小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう

■ワークで出た意見のまとめ（第2部第3回小川デザインカフェ）

	意見（成果）
Aグループ	<p>●ワーク1：「こんなことがしたい!」「こんな風に使いたい!」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の行事がモニターで見られるようになっていないか。</li> <li>・視覚的に何がやっているかがわかるように発信すると良いのではないか。</li> <li>・仲間募集の情報が集約されていないため、一か所に集約されると良いのではないか。</li> </ul> <p>●ワーク2：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経費は抑えながら、若者に負担をかけないようにしてはどうか。</li> <li>・5年後10年後も人が来るような施設にしたい。</li> <li>・子どもたちにスポットライトを当てて、広場を使用する。毎週土日子どもの日にして、プレイパークにするほか、花見ができるようにするなど、思い出の場所にできるようにしてはどうか。</li> <li>・愛着は場所だけではなく、人の愛着もあるため、近所の遊びが得意なおじさんやおばさんがいてくれることや、お兄さんやお姉さんにアルバイトをお願いして、子どもたちと遊んでもらえるようにするなどの取組によって、人への愛着をつくるのが大事ではないか。</li> </ul> <p>●ワーク3：4・5階公共床と市民広場のつながりを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4階・5階の窓から広場が見えるようにする</li> <li>・図書館で借りた本が広場で読めるようにする。</li> <li>・広場に移動させられる椅子などを準備して、移動図書館をするなど、下の広場で図書の貸し借りもできるようにする。</li> <li>・4階や5階から本を下に配付できるようにする。</li> </ul> <p>●ワーク4：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活気があって、自然と調和して、子どもたちに負担をかけないようなまちづくり。</li> <li>・活気があるというのは、人が増えて、商店が増えること。ただ建替えをするのではなく、今ある商店街にどのように人を増やすかという導線をつくる。</li> <li>・自然と調和していくためには、玉川上水などのもともとある自然をつなげるような取組をする。大切な観光資源をつなげるような導線をつくる。</li> <li>・全体を見て、建物の建替えだけではなく、活気があって、自然と調和していて、今いる人たちに負担をかけないようにする。</li> </ul>

**●ワーク1：「こんなことがしたい!」「こんな風に使いたい!」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組を考えよう**

・テーマを決めてイベントを行う取組があると良い。大学生、幼稚園、保育園、小・中学校、障がい者施設、高齢者施設等と調整し、様々な世代やターゲットに応じてテーマ設定をし、年間を通じて様々な人が使いたいと思えるようなイベントを行うことが良いのではないかと。ただし、アイデア出しや実際の企画検討はテーマに応じて市民を含む民間側が良いと思うが、取りまとめとしての音頭取りは、行政にしてほしい。

・市民広場の年間スケジュール表を作成し、若者向け等のジャンル分けをし、割り振りを行う。そのスケジュール表に対して、具体のイベント等を、利用団体等が考え埋めていく。その際、市内全域とのつながりを持つ仕掛けとして、他地区の団体とのコラボレーションで行うなどの決まりごとを作ることで、にぎわいが市内に広がる。

・もともとあった盆踊りや八雲祭などのお祭りについて、広場を拠点として行い、小平市の拠点としていく。

・大学や高校など、いろんな世代に来てもらえるよう、小平の発信の拠点としたい。

**●ワーク2：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組を考えよう**

・タイルに足形をつけて、導線づくりをするなど、広場からグリーンロードまでどう導線をつくるかを検討する。

・自分の何かの記念に募金して、記念樹を植えてはどうか。

・アプリの充実によって、スマートフォンなどを活用して、情報の掲載、PR、チラシの設置を行う。

・小川を知らない人が多くいるが、小川駅は西武鉄道において一番初めにできた駅で、歴史があるところなので、歴史を伝えるスペースをつくる。

**●ワーク3：4・5階公共床と市民広場のつながりを考えよう**

・4階・5階と市民広場をつなげて、広場から上を見たときに、「あそこに行きたい」という何かをつくるのが良いと思う。トリックアートなども活用し、毎回、テーマを変えたり、場所によって見えるものを変えるなどできると良いのではないかと。

・つなげるという意味で、駐車場に広場につながるようなイラストを描いてもらうのはどうか。

・広場に小川を流し、その先に上へ行くエレベーターなどがあると良いのではないかと。

・市外からも人を呼びたいので、西武鉄道と連携できると良いのではないかと。

**●ワーク4：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう**

・広場からグリーンロードへのMAPを作成する。商店が活気づいてきたら、税金

B グ ル ー プ	<p>を使って市外からも人が来るよう取組を行い、市外の人がお金をいっぱい使ってもらえるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西武ライオンズ、FC 東京など、人を呼び込めるような施設にする。</li> <li>・多摩地区では留学生が多いため、世界からもその友人が来る可能性がある。ここで出会った人が他の場所で会話が生まれて、コミュニケーションがつながるような場とする。</li> </ul>
C グ ル ー プ	<p>●ワーク1：「こんなことがしたい!」「こんな風に使いたい!」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民同士で情報発信ができ、情報交換ができると良いのではないか。そのために伝言板や液晶版があると良いのではないか。</li> <li>・どの部屋がどのくらいの時間帯まで使うかが分かると良いのではないか。</li> <li>・相談やアドバイスを受けられる場所があると良いのではないか。</li> </ul> <p>●ワーク2：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かのお祭りやイベントに携わらせることで、話題性も出るし、人が多く来て、愛着形成につながると考える。</li> <li>・周辺の施設とイベントを共催する。</li> </ul> <p>●ワーク3：4・5階公共床と市民広場のつながりを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広場における青空図書館のほか、出張して図書館の活動を広場で見せられるようにする。</li> <li>・4階・5階に色をつけたり、ピクトグラムを施設の中に入れるロゴを作ったり、イルミネーションを広場からつなげて、目を引かせるなどしてはどうか。</li> <li>・おしゃれな空間とする。</li> <li>・外と内をつなげて、見せる化をすることが大事ではないか。</li> </ul> <p>●ワーク4：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人もない人もコミュニケーションがとれる、チャレンジができるまちとする。</li> <li>・学生生活が満喫できるまちとする。</li> </ul>

**●ワーク1：「こんなことがしたい!」「こんな風に使いたい!」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組を考えよう**

- ・相談窓口の形で、市民のニーズを把握する場所とする。やりたいことのために何が必要かをアドバイスするなど、協力できることを見つけられるようにし、サポートする。やりたい人とできる人をつなげる取組はどうか。
- ・取組でできた内容を発信していけるようにする。いろいろな人が見て、活動の連鎖をつくれるようにする。

**●ワーク2：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組を考えよう**

- ・まずは施設を知らないとな愛着はわからない。
- ・学生や子どもなどに焦点を絞って、ピンポイントで魅力的な提案などをしていき、結果として、親や友達などに輪を広げていけるのが良いのではないか。
- ・いろんな世代が交流できるようにしてはどうか。
- ・自主的に動いていけるようにしてはどうか。
- ・地域のお店と関わり合いをもって、市がつなぎ役をし、発展させていくことはどうか。

**●ワーク3：4・5階公共床と市民広場のつながりを考えよう**

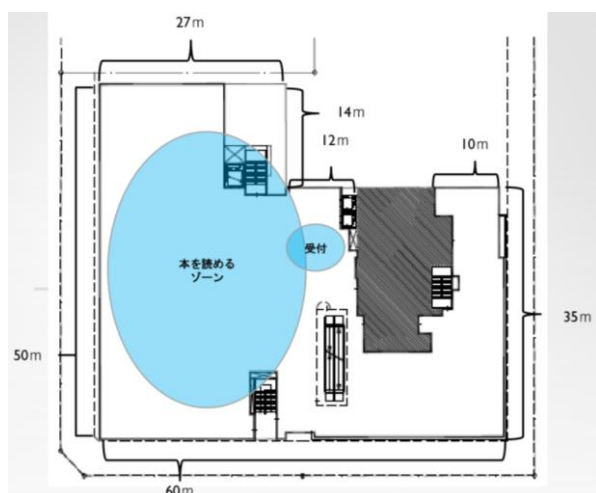
- ・距離をどうするかよりも、距離を考えずに、つながりをつくることはどうか。
- ・公共床と市民広場の視覚的なつながりをつくることはどうか。
- ・イベントや何かを実施するときに、同じ取組を広場と4・5階で行い、連動性をつくることで、二つが一体化しているように見せてはどうか。
- ・広場と4・5階で何をやっているかが見えるように情報伝達をすることはどうか。

**●ワーク4：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう**

- ・生活しやすい、落ち着くようなエリアにする。
- ・福祉のまちとして、障がい者の施設やバリアフリーに特化するなどはどうか。
- ・安全・安心というエリアにすることはどうか。
- ・小・中学校や高校などの学校帰りの学生が立ち止まられるようなまちにすることはどうか。
- ・お祭りなどがあれば、多世代交流につながる。
- ・マンションなどの若い世代ともとの住民が交わるようなまちを目指すことはどうか。

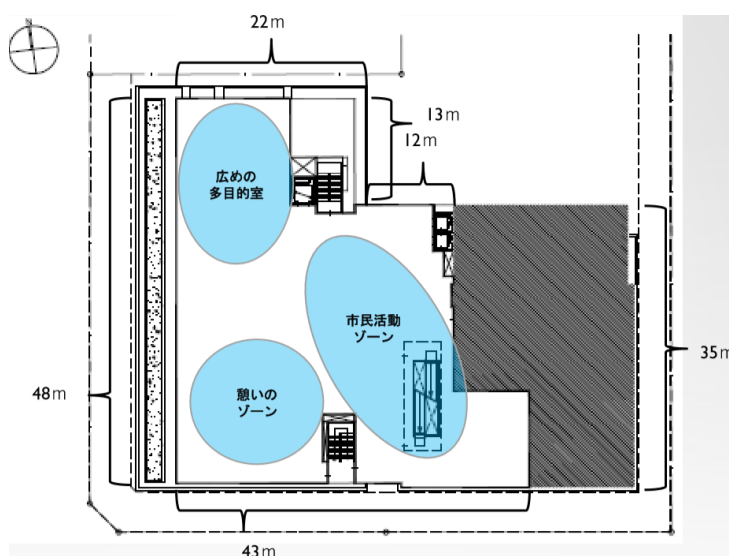
小川デザインカフェでは、小川駅西口地区市街地再開発事業が進んでいることもあり、公共スペースの白図をもとにゾーニングを考えるなど、中央エリアとは異なり、より具体的な話題でワークショップを行いました。

そのような状況の中、4・5階の公共床部分だけではなく、市民広場とのつながりをもつことの検討を行うことで、小川駅西口公共スペース全体の魅力づくりへの可能性を感じるとともに、にぎわいの創出といった意識を共有することができました。



4階（第1部の意見を踏まえたイメージ）  
4階は本が読めるゾーンとし、エレベーター、エスカレーターから上がってきた場所に来館者を迎える受付を配置。

5階（第1部の意見を踏まえたイメージ）  
北西に広めの多目的室、南西に憩いのゾーン、全体的に市民活動ゾーンを配置。



## 4 中央・小川デザインカフェを終えて

### (1) 中央・小川デザインカフェを終えて

中央デザインカフェ・小川デザインカフェともに、毎回、活発な意見交換や様々なアイデアが発表され、会場は熱気で包み込まれていました。

市としても、「また次回も行きたい」と思っただけよう、参加者の方々からいただいた声に応じて、カフェの進行や雰囲気づくりなど工夫してまいりました。

第1部が始まった頃は、大きなプロジェクトであるため、参加者にとって難しいのではないか、最後まで参加していただけるかなど不安な部分もありましたが、参加者のご協力のおかげで、最後まで開催することができました。

カフェを通じて、市として参加者の方々には多様な意見があることを認識しました。また、参加者同士でも、多様な意見があることの認識ができたのではないかと考えています。

短期間で多くのテーマについて考えることは、参加者にとって大変な作業であったと思います。そのような中、参加者の方々に様々な意見等をいただけたこと、また運営にもご協力いただけたことに感謝いたします。

## (2) 今後の「中央・小川デザインプロジェクト」の展望

市は、市民参加で基本計画を策定するため、中央・小川デザインカフェ、利用者・利用団体ヒアリング、アンケートなどの手法を組み合わせた中央・小川デザインプロジェクトを通じて、市民の方々から様々な声を聴いています。

本プロジェクトを通じて、多くの市民の方々とお会いすることができました。特に、中央・小川デザインカフェでは、職員が参加者と同じグループに入り、ワークショップを行うことで、参加者とより顔の見える関係を築くことができました。

この「縁」を大切に、また本プロジェクトを意識しつつ、今後も基本計画の策定の進捗状況に応じた市民参加を進めます。

令和元年秋頃を目途に、市民参加で得た意見を基礎資料に、基本計画策定を進めていきます。



中央・小川デザインプロジェクト  
～次の世代の施設を考えよう～  
中央・小川デザインカフェ報告書

令和元年6月発行

編集・発行 小平市企画政策部 公共施設マネジメント課  
〒187-8701  
東京都小平市小川町二丁目1333番地  
電話番号 (042) 346-9557  
電子メール facility-mg@city.kodaira.lg.jp

¥240